

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

夏までもうすぐ

長雨があつたり、日照りになったり、おかしな天気が続いております。もうすぐ本格的な夏になります。そういえば2月は関東地方では大雪でした。お寺にも1メートル近い雪が積もりました。こんなのはじめて。人力による雪かきでは、人一人と通れる参道を造るのに一日がかり。全く参りました。

そんな冬の寒い時期には、夏の暑さが恋しくなります。雪なんか早く溶けちゃえば良いのに。また夏になれば冬の寒さが待ち遠しい。とかく私はわがままな者であります。

快川紹喜禅師は美濃の國の人。京都妙心寺の住持も勤めた当代一の禅僧です。優れた資質を買われ、甲斐武田信玄に迎え入れられ塩山恵林寺の住職となります。しかし、織田信長の甲州征伐で武田家は滅亡、織田軍への誘いも断り、禅師は一山の僧達と共に恵林寺の三



恵林寺
恵林寺三門に掲げられた「心頭滅却」の偈

門へ立てこもり、焼け死にます。その際辞世の句として残したのが有名な「心頭滅却すれば」の一句です。禅の代表的古典である碧巖録と、唐時代の詩人杜荀鶴を参照して、「安禅必ずしも山水をもちいず、心頭滅却すれば火も亦た自ずから涼し」（禅の心鏡は必ずしも静かな環境でなければならぬ。心を平静に保てば業火の中でも安らかだ）夏になれば暑い、冬には寒いと騒ぐ我々には、中々耳の痛い言葉であります。さて、禅の悟りを得れば炎の暑さも感じなくなるのでしょうか。詳しい解説は法話のコーナーで。



もうじき今年もお盆になります。宝泉寺では棚経と共に今年も「盂蘭盆会総供養」を行います。ご案内状は今年新盆の方、また近年に新盆を迎えた方に優先的に送っておりますが、当日の飛び込み参加も大歓迎です。下記要領で行いますのでどうぞご参加頂きたいと思っております。ご質問お問い合わせは宝泉寺（〇四二一六六一―三三三三）まで。棚経のご希望も受け付けています。こちらなるべく早くにお寺までご相談ください。



お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。
①テーブルにマコモを敷く
②四方に笹を立て麻縄で結び
③位牌香炉燭台花等を飾る
④茄子や胡瓜で馬と牛を作る
⑤蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子（みずのこ）」、椀に清水を満たした「開加水（あかみず）」を供える
⑥膳をつくり供える
⑦その他、そうめん、果物など夏の食物を供えください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！

法話

元になった碧巖録第四十三則には洞山和尚と弟子のこん問答が載っています。
弟子：「暑さ寒さに直面したときどのように回避したら良いでしょうか」
洞山：「暑さ寒さのないところに行けば良いではないか」
弟子：「それはいつたいどこにあるのでしょうか」
洞山：「暑いときには暑さに身を任せればよい」
寒暑に限らず、辛い出来事難しい問題に直面したとき、どうしても逃げ出したい気持ちになります。例えば暑い、という問題にぶつかつたとき、避暑に出かけていくのか、エアコンを強めにするのか、それでも大元の暑さが解決したわけではないところと言って逃げ出したとしても、それは状況を

ただ一時回避したにすぎない。それならば、その問題の中に自分をどっぷりつけてしまつてはどうか、回避策を模索して騒ぐより、暑さ寒さにそのまま身を任せてしまえ、と洞山和尚は言うのです。
私の居た修行道場は電化製品がありませんでした。冷蔵庫もエアコンもない。「一番冷たいのは井戸水」です。勝手に薄着になることもできず、坐禅だけでも汗だくです。そんなとき頭をよぎるのは「ああウチに居れば冷たい麦茶が飲めるのにナア」とか「暑くて集中できないよ」など愚痴ばかり。「扇風機もないなんて！」イライラしてまさしく修業どころではありません。ところが同じ環境に居ながら先輩方は全然平気な顔。ある時言われてしまいました。「新到（新人雲水）

よ。暑いときには涼しくなろうとするな。暑いときにはは頭の中で暑い暑いと唱え続ける」そこで頭の中でひたすら「暑い暑いああ暑い」とやっていくと、不思議なことに暑さが気にならなくなってくる。外の暑さはなにも変わっていないのに。
私は暑いことを言い訳にして、涼しい部屋でのんびりしていた思い出に浸つて、目の前の事から逃げたい一心だったので。暑いときには、「ああ、あついわあ」で良い。そして涼風にあたつたら「ああすずしい」で、それだけで良い。「もつと吹かないのか」「こんなに暑いのは誰のせいだ」などと悪態ついたり、逆に「火もまた涼しだつ」と無理に我慢したり、余計暑苦しい。自分の心の中まで炎に焼かれていくようなものなのです。

いのなら、回避したり心の外側から解決しようとしなくて、迷いにどっぷりつかつて、真つ正面から全身で受け止めなさい。甲斐恵林寺の快川紹喜禅師の「心頭滅却すれば火もまた自ずから涼し」の言葉は焼き殺される、その時に発せられたものです。困難と言えこれほどの困難はない。絶体絶命です。押しのけて逃げるのか、泣いて命乞いをするのか。快川和尚は禅の境地に従つて、困難な状況にそのままどっぷり浸りきつたのです。「騒いだところで詮無き事よ、しかし身に迫るこの炎は耐えがたい。ならばこの熱に身を任せ、迷い苦しむ心そのものになつて、かえつて平安な心持ちでいようじゃないか」迷い苦しみに振り回されることがなければ（心頭滅却すれば）火の熱さにも振り回されない（火もまた自ずから涼し）身を焼く炎は熱かつたと思ひます。涼しくなかなかつたはずですが。しかし心の中は「なぜこうなつた」とか「誰のせいだ」という迷いの炎は打ち消えて、静かな涼やかなであつたに違いありません。
まもなく本格的な夏がやってきます。暑いときには暑いまま、冷たいお水を飲んで「ああうまいなあ」くれぐれも無理に我慢しちやいけません。水分補給、エアコンも扇風機も上手に使つて気温に負けず、そして心の中もいつも涼やかに、さわやかに過ごしたいものです。

コラム

仏事に関する よもやまばなし



年忌法要、と言う習慣は世界的に見て珍しいものなんでしょう。様々な宗教でもお葬式は行われていますが、その後の死者儀礼には余り感心がなく、よくて7日ごとの初期法要、49日、100ヶ日、一周忌三回忌七回忌

とに、「弁護担当」の仏様が死者の生前の善行を閻魔に報告し、追ってその仏の御教えを死者に学び、極楽浄土にふさわしい「新仏」に教育していく。死後七日ごと7回、百か日一周忌三回忌と裁判は10回行われ、そのとき

土にふさわしい者はいない」と報告され、絶大な力を持つ薬師如来の言うことならば、と閻魔は間違いない極楽往生をさせるんだそうです。

「十王経」という經典に、死者は七日ごと閻魔王に裁かれた後、地獄極楽の行き先が決まる、と書かれています。その裁判に弁護士役として登場するのが、地藏菩薩や普賢菩薩、不動明王をはじめとする十三佛なんだそうです。お葬式後、初七日に地藏菩薩、二七日に普賢菩薩と言う具合に裁判ご

この年忌法要が適正に行われると、薬師如来から閻魔王に、「生前の行い良く、その死を悼んで追善を送ってくれる家族も居る。更に仏の教えも円満に学び、この者ほど浄

古代中国人は理論的な民族だったようで、死者の行く末と、生き残った家族の役割を、現実的な視点で考えました。つまり残された家族は年忌法要のその時だけきちんとしていれば良いのではない。自身の善行を年忌法要の時にまとめて死者に回り差し向ける(回向)為に、普段から良く信仰を保ち、良い生き方をしなければならぬ。「あなた

古くは居られない。その「せざるには居られない」そのお気持ち仏様を潤し、養うのです。おなかいっぱいにするのです。満福で笑顔の仏様と暮らす。供養の気持ちは私も笑顔にしてくれます。



あいうえお用語辞典

供養 (くよう)

供給資養、略して供養。食べ物や分け与え、養うことを言います。お仏壇にお菓子並べて手を合わせるわけではなく、あの人

は居られない。その「せざるには居られない」そのお気持ち仏様を潤し、養うのです。おなかいっぱいにするのです。満福で笑顔の仏様と暮らす。供養の気持ちは私も笑顔にしてくれます。

「十三、十七、二十三…年忌」とに死者と私との繋がりを明確に意識することで、現実の世界に生きる

る私たちが生きる意味と意欲を持てるようにしたいのです。たまにですが、「法事をするのに人数が少なくても良いですか」とご相談を頂きます。結論から申し上げます。まったくかまいません。十王経に倣えば、死者のために追善追福を行い、善行を行うものが一人でもあれば、ご先祖様は安楽に極楽浄土に暮らしていけるのですから。家族だけのご法事、また住職と二人の静かな法事もまた良いものですよ。毎年忌やお命日、祥月命日などの法要も出ますから、お気軽にご相談ください。

本山研修会ご報告

大本山南禅寺にて、南禅会女子研修会が行われました。これは南禅寺派の女子檀信徒を対象に行われるもので、各寺院から代表者4名が参加しました。今回当山からは横浜市の黒田さん、八王子市の林さん、鈴木さん、富澤さんの4人が参加してもらいました。



中央：本山信徒部長様と
左から黒田さん 鈴木さん 林さん 富澤さん

を会場に、写経や坐禅の講習、作務や南禅寺派管長香南軒老大師の法話など、貴重な体験をして頂けたとおもいます。黒田さんには「日頃の雑踏を離れて法話灯明会坐禅など、感激、笑い、反省など色々ある中で有意義な学びをさせていただきました。また塔所参拝、名勝庭園にもお連れいただき感謝無量の思いでした。四人揃っての作務衣には皆さんうらやましがられました。管長さんには「宝泉寺の住職は太っ腹だね」とお顔をほころばせてお声かけいただきました」と感想をいただきました。四人とも初対面でしたが、仲良く良い研修をして頂いたようです。10月には男性檀信徒が対象の「男子研修会」が行われます。先着4名様です。ご興味のある方はお早め

霊園だより

連日暑い日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。まもなくお盆がやって参ります。お花お線香を唯して皆様の墓参をお待ちしております。是非ご利用ください。また、墓参時に気になった外柵のズレや目地の欠けなどの修理、墓地工事の事などありましたら管理事務所にお問い合わせください。お待ちしております。皆様のご健康をお祈り申し上げます。

八王子南霊園
管理事務所 畑山

編集後記

4月後半、布教師として佐賀県小城市に行ってきました。約2週間の法話の旅。同じ宿に連泊しましたので宿のおばちゃんとも仲良くなり、空き時間に自転車で出ないのんびり散歩を楽しみました。初夏の心地よい風と、日差し、そして自分の脚の衰えを感じました。



今年の巡教先、佐賀県小城市

